



第77回全国高校野球選手権大会 甲子園出場

応援歌集

田辺高校応援團

團魂

見渡せば 錦水城下
白亜の殿堂 天突く如く
己が心 それに勝りしを
田高応援團
上智超凡 人格統致
全学団結 母校愛

大きな声でお願いします

- 扇ヶ浜 ゴーゴー田辺・ゴーゴー田辺・ゴー・ゴー・田辺
- 田辺が一番 ファイトー ファイトー 田辺・ファイトー ファイトー 田辺
 かつせ かつせ ○○○・かつせ かつせ ○○○
 かつとばせー ○○○
- ゴーゴー田辺 レッツゴー田辺・レッツゴー田辺・レッツゴー田辺
- ロボコン音頭 1押し・2押し・3に押し(ソレ)
 押して 押して 押しまくれ
- ダッシュ かつせ かつせ 田辺・かつせ かつせ 田辺
 かつとばせー ○○○
- 田辺が大将 田辺が大将(6回)

※○○○は選手名

■基本的に下記のコンバット曲で応援しますが、試合の流れによって変更します。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1回 神子浜 | 4回 扇ヶ浜 | 7回 アトム |
| 2回 ダッシュ | 5回 田辺が一番 | 8回 田高音頭 |
| 3回 ロボコン音頭 | 6回 ゴーゴー田辺 | 9回 田辺が大将 |

校歌(一番のみ)

一、なみよるふ
 牟婁やまなみの すがしさを
 あさけの空に 仰ぐとき
 理想は映えて 高かける
 田辺高校 若人我等
 心に強き 誇あり

二、風わたる
 扇が浜の まつなはて
 はるけき海に 思ふとき
 真理は深く 身に迫る
 田辺高校 若人我等
 瞳にさとき 光あり

三、新たな世の
 道開きゆく 雄々しさを
 栄ある肩に 荷ふとき
 正義と愛に 結び合ふ
 田辺高校 若人我等
 ゆくては常に 力あり

田辺中学校校歌

一、万古動かぬ高雄山
 永遠に流るる 牟婁の海
 ここぞ数百年の健児等が
 競い生い立つ活躍地
 我が中学の英風は
 扇ヶ浜の松千樹
 嵐気颯爽いや高く
 白砂碧浪いや清し

二、浮世の風は荒くとも
 よもゆるがじな我が心
 花は都に美なりとも
 実る心は鄙にあり
 学べ自然の教え草
 田辺湾頭月清き
 太平洋の一角に
 碎くる波の壮観を

牟婁の江の辺につどい来て
 学びの海の沖遠く
 真帆の追手に進みつつ
 正しき船路な過ちそ
 恵みの波も底清く
 変えぬ操はひと皆も
 扇ヶ浜の磯馴れ松
 深き根ざしぞ誠なる
 固めよ根ざし 誠の根ざし

田辺高等女学校校歌

創團三十三年 歴史を伝えて
 声を限りに ああ母校!!

南紀の空

一、南紀の空に 雲わきて
蚊竜ついに 昇天の
扇ヶ浜辺 波はおどり
緑の松に 風くるう
おおお 我等が選手
おお 田高選手

二、高雄の山や 牟婁の海
こぞりて君を 送る今日
いざ大鵬の 誇り高く
駆りて征けや 雲裂きて
おおお 我等が選手
おお 田高選手

尚風寮歌

一、朝に仰ぐ三熊野
山は高雄の峰にこそ
雄しく強き若人の
男の力示すなれ

二、げに我が寮の立つ所
地は秀麗の料にして
心も身をも磨くべき
牟婁の浦わの風清し

三、潮花咲く南の
熊野男児が名に誇る
歴史は古き学び舎の
我等が寮よ栄あれ

援團節

一、黒潮おどる ここ紀州
武蔵坊弁慶 生まれしを
我等が郷関 田辺町

二、田辺の名所 数あれど
天神崎に 奇絶峽か
奇峽岩に 扇浜

三、扇ヶ浜を 目の下に
大戸の坂を 登りしを
悠然かまゆる 我が田高

四、田高晴れて 入学し
胸の自覚も 一段と
今日より天下の 田高生

五、田高生なら 応援團
入團すれば 敵しいが
男のクラブだ 母校愛

六、母校の為なら どこまでも
男度胸の 応援團
明日の田高 團でもつ

七、俺でもつもつ 可愛い子
娘泣かせの この俺も
戦い勝っては 男泣き

八、俺の涙は お前ふき
お前の喜び 分かちいて
共に歩むか 応援團

九、応援團よ 団結で
気一致精神 失わず
切磋琢磨で 母校愛

学生歌

一、黒潮躍る南海の
伝統薫るこの地に
久遠の真理究めんと
若き希望の炬に集う
田辺高校正気あり

二、自治と自由の旗風に
新生謳うこの郷の
文化の先駆人ありと
高き誇りの名に競う
田辺高校使命あり

三、崇き性もつ若人の
瞳みは深しこの園に
理想の翼休めつつ
遠き飛躍の日に備う
田辺高校光輝あり



旗歌

一、扇ヶ浜に 秋気満ち
松籟みぎわに 波立ちて
夕日に健児 声高き
エールを友にあげし日よ

二、熱球砂を かむところ
碧空とわに 極まりて
力と業に 恵まるる
王者の格を誇る日ぞ

三、吹く朔風に 胸を張り
氷の坂を 登るとき
我が学び舎は鎮もりて
永久の真理に扉を開く

田辺ばやし

一、月に浮かれて 扇ヶ浜で
今宵一夜は 総踊り
ソレエー ソレエー

二、姉が音頭取りや 妹が踊る
親父や気げんで ええじゃないか
ソレエー ソレエー

三、投げた松明 みごとにとんだ
燃えてあがるぞ 柱松
ソレエー ソレエー

四、合わす手拍子 波乗り越えて
届け白良の浜までも
ソレエー ソレエー

五、浜は大漁で みのりも豊か
栄え田辺の町恋し
ソレエー ソレエー

田高音頭

一、紀州田辺の名物ならば
はまゆう徽章の田高音頭
この歌唄えば心も軽く
成らぬも成すの技が出る
今日ももらった勝鬨を
※ドドンとネ ソレ ドドンとネ
ドドンとネ ソレ ドドンとネ
田高音頭で誉れ花

二、纏かかぎて音頭をとれば
黄金の扇子の波また波に
花も咲きます咲かせます
四角四面の世の中も
丸くおさめて 日本晴れ
※ repeat

田高音頭の乱れ打ち
へ太鼓乱打 ワッショイ ワッショイ入る

三、鐘が鳴る鳴る自由の鐘が
大戸の丘より西東
山脈はるかのりこえて
田高生の心意気
何処までとどくか
果てしない
※ repeat
田高音頭が鳴り響く

建遊歌

一、大戸の丘を眺むれば
登りし我等が学舎よ
浜木綿花咲くその庭に
建ちし想いは遙かなり
夢をい抱きて野に歌う
これぞ田高健男児

二、赤い花なら君の手に
白き花なら吾が胸と
諸にわかし青春の
喜び遙か過ぎさりて
今は出立ちゆく身とならば
逝きし幾年忘れまじ

三、永遠に母校の隆盛を
不変の情熱たぎらせて
あとに残りし輩よ
粉骨碎身母校愛
友の背涙でぬらすとて
己が心にのぞみあり